

もがみ大豆だより

第3号<病害虫・雑草対策>
令和2年9月1日
最上総合支庁 農業技術普及課
TEL：29-1331

●良質大豆生産のために病害虫の適期防除！

●残存雑草処理は、稲刈り前の今のうち！

最上管内の大豆の開花盛期は8月2日でした（平年+2）。これから成熟期にかけて子実が肥大し、外観品質が決まっていきます。多収と高品質を両立させるため、適切に病害虫・雑草を防除しましょう。



☑病害虫防除

① マメシンクイガ

防除適期は8月下旬、9月上旬の2回です。特に、連作圃場や前年多発生した圃場ではマメシンクイガの生息密度が高い傾向があるため、必ず防除を行きましょう。薬剤散布の際は、莢に薬剤がしっかり付着するよう、ていねいに散布しましょう。

<発生> 年1回

<ピーク> 8月下旬～9月上旬

<特徴> 産卵時期は8月下旬～9月上旬。卵からふ化した幼虫は莢の中に食入し、内部の子実を食害する。



② 紫斑病

開花期～子実肥大初期にかけて感染し、特に開花期12日後～40日後が最も感染しやすい時期です。このため、開花期25日後～35日後の防除を徹底しましょう。

<特徴> 子実の表面に糸状菌による紫色の着色が見られ、外観品質を大きく低下させます。また、登熟期間の高温多湿条件が感染を助長します。なお、罹病した莢や子実が翌年の伝染源となるため、多発圃場での連作は避ける必要があります。



③ウコン/メイガ(今年管内で多く見られています)

幼虫が葉をロール状にゆるく巻き、その中で葉を食害します。発生が多いと全葉が被害を受け、食害部は褐変して枯死し、減収します。発生を確認したら早めに薬剤防除しましょう。



被害圃場



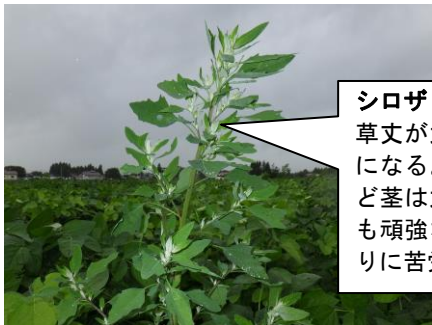
葉巻きの状況

☑雑草対策

残存雑草は①大豆の生育を阻害し、②収穫時の障害となり、③汚損粒の原因となります。残存雑草は抜き取り、圃場外へ搬出しましょう。来年の雑草発生量を抑えるためにも、雑草種子がこぼれ落ちる前に対処しましょう。

♠帰化アサガオ(アメリカアサガオ、ホシアサガオなど)

近年問題になっている雑草で、最上地域でも農道法面などで散見されます。圃場への侵入を防ぐとともに、圃場内に帰化アサガオが侵入していないかよく観察し、発生を確認したらただちに抜き取りましょう。



シロザ
草丈が大豆の2倍以上になる。大型になるほど茎は太く硬く根張りも頑強なので、抜き取りに苦勞する。



イヌタデ
大豆よりも草丈は高くなる。花は房状で赤く、1株で数千個の種子をつける。



ツクサ
生長すると地面を覆うようになる。大豆収穫期にも青々としているため水分が多い。汚損粒の一因となる。



帰化アサガオ
ツルが長く伸びて大豆株にからみつくので、収穫の支障となるのは勿論、手取り除草にも苦勞する。根は深い。

農薬危害防止！農薬は必ず使用方法を確認し、正しく使用しましょう！
STOP農作業事故！農作業はあせらず、きままず！